

港湾局発注関連業務適正化検討委員会報告書（概要版）

1 はじめに

川崎市港湾局は、平成27年8月から11月までに発生した設計積算ミスによる入札中止4件という事実を重く受けとめ、今後と同様の事態を生じさせない体制を構築することを目的として、設計積算ミス起因の究明及び今後の対応について次の委員会と3つの部会を立ち上げ検討を行った。また、今回の事態を契機に、入札契約制度及び服務規律等の整理と研修等を改めて行い、職員全体のコンプライアンスの向上を図った。

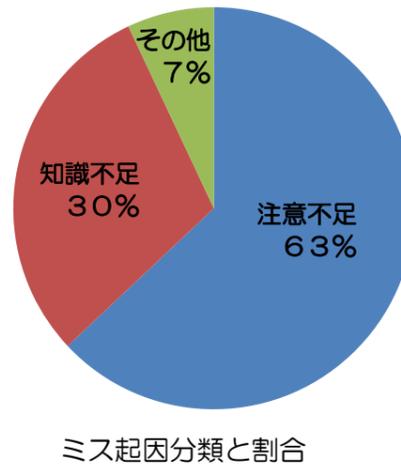
◎ 港湾局発注関連業務適正化検討委員会

- システム入力ミス防止部会 : 積算システムに関すること
- 設計積算ミス防止部会 : 設計積算に関する手法等に関すること
- 入札契約制度コンプライアンス部会 : 入札・契約制度及び服務規律等に関すること

2 設計積算ミスの起因（システム入力ミス防止部会・設計積算ミス防止部会）

（1）入札中止4件の調査結果

ミスの起因分類	具体的内容
注意不足によるミス	<ul style="list-style-type: none"> ・システム入力打ち間違い ・単価入力の確認不足 ・思い込み、勘違い
知識不足によるミス	<ul style="list-style-type: none"> ・設計積算内容を熟知していない ・基準書等に掲載されている内容の理解不足
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況を適切に把握できていない ・設計積算根拠資料（諸元）の未作成（未完成）により詳細なチェックができない



（2）調査結果の分析

1) 港湾局の設計特徴

対象施設として、岸壁、埋立護岸、荷捌き地、荷役クレーン、臨港道路、上下水道施設等と多岐に渡っており、複雑かつ複合した施設等の設計にも臨機応変に対応しなければならない

2) 個人による多段階チェックの限界

- 知識・経験の少ないチェックでミスのすり抜けが発生
- チェック等設計照査技能の継承不足

3) 新たなチェック体制で必要なもの

- 個人スキルのみ依存しない手法の構築
 - 新種・未経験の設計に対応する手法の構築
 - 設計・照査におけるOJTの工夫
- 合議による集団確認
- （異なる発想の融合による
チェック作業項目の気付き）

3 今後の対応・対策（システム入力ミス防止部会・設計積算ミス防止部会）

（1）新たなチェック体制について＜検証会＞

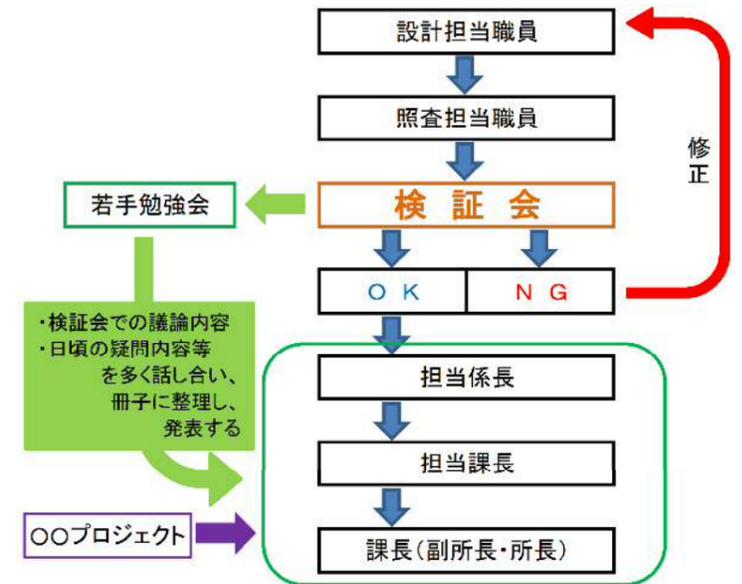
→注意不足・知識不足の対応

設計積算の内容を細かくチェックする体制を強化するとともに、新人職員、若手職員及び異動職員等への指導・教育等ができるスタイルを構築し、適切に運用する。

※[重要] 誰が見ても分かりやすい設計積算根拠資料（諸元）を必ず用意する

※[構成（整備課例）]

- 設計担当職員 1 照査担当職員 1
- 検証担当係長 1 事務局担当係長 1
- 検証担当職員 1 検証担当補佐職員 3



（2）進捗状況把握及び情報共有の強化について＜管理者会議＞→その他への対応

進捗状況把握及び情報共有の強化を図るため、従来の会議に加えて、密接かつ詳細な内容を調整・議論する小会議（コア会議）を計画的に開催する。

（3）研修制度の拡充について

技術監理担当が主催する全体研修に加え、設計積算担当課における日々の通常業務においても指導・教育等ができる‘場（小研修）’を構築する。

積算システム 基本操作研修	新人・異動職員 説明会	間違いやすい システム操作研修	設計積算研修会
検証会（再掲）	若手勉強会	研修参加者 報告会	プロジェクト

4 入札契約制度及び服務規律等（入札契約制度コンプライアンス部会）

（1）入札・契約に関する制度理解の向上

予算、会計及び文書事務に関する基本を確認するため局内研修を3回開催し、次年度以降も「港湾局人材育成計画」の「局として行う研修」に位置付け、継続的に実施する。

（2）コンプライアンスの徹底に向けた取組

関係事業者等への対応や情報管理の徹底について、「（仮称）港湾局不祥事防止シート」を整理し、「港湾局不祥事防止委員会」へ提案するとともに、研修等を通じて引続きコンプライアンスの徹底を図る。

5 港湾局職員としての再発防止に向けた決意

この検討結果に基づき、設計積算業務のチェック体制の強化を図るとともに、効果的研修を実施し、職員の意識改革及び知識向上を図り、適正かつ確実な事務執行に取り組んでまいります。